

富士銀行の歩み

創業以来118年、富士銀行は近代日本の歴史の発展とともに歩んできました。明治13年に合本安田銀行を創業。明治維新と近代国家の建設に、銀行家として多大な貢献を果たした安田善次郎の精神は、その後も1世紀以上にわたって多くの行員たちによって受け継がれ、今日に至っています。この1年、日本経済全体がかつてない激動と変革を経験してきましたが、今一度、原点に立ち戻り、約1世紀にわたる変遷を改めて見直してみるのも意味あるものと思われまます。明治の「安田銀行」から今日の「富士銀行」へ、激動の時代とともに歩んできたその大いなる軌跡を振り返ってみました。



明治45年当時の安田銀行本店



創業時代の貯金箱、小切手複記打抜器、帳簿など



安田関係11行の大会同で、わが国最大の新安田銀行誕生（大正12年）



安田善次郎の人生訓「身家盛衰循環図系」



創業者 安田 善次郎

明治の幕開けとともに、
安田銀行を創業し、
育て上げた善次郎

元治元年(1864年)、25歳の若い創業者・安田善次郎は、25両の資本で、日本橋人形町通り(現在の中央区堀留町)に乾物兼両替店「安田屋」を開業しました。2年後の慶応2年、日本橋小舟町に移って「安田商店」と改称。善次郎は発足したばかりでまだ信用力のない明治新政府の不換紙幣や公債を率先して引き受け、その流通に積極的に協力します。その結果、安田商店の業績は大いに伸び、高い信用を得ることに成功しました。幕末・維新の動乱の中で、本格的な両替商としての地位を築いていくことになったのです。

明治13年(1880年)、安田商店を合本安田銀行に改組、資本金20万円、従業員31人、店舗数3の銀行業として、ここから富士銀行118年の歴史が始まります。銀行家・善次郎は「社会、国家の発展のためには、公共的事業が不可欠である」という使命感を生涯を通して貫き通し、築港や鉄道などの大規模な公共事業に積極的に資金を提供しました。これが東京市や大阪市など地方自治体の信頼獲得につながり、のちの「公金の富士」の名声を築く基盤となっていったのです。

第一次世界大戦後の
金融再編成により
日本最大の新安田銀行発足

明治から大正にかけては、第一次世界大戦や関東大震災後の不況の中で、金融再編成をはじめ産業の近代化が求められていました。中小の銀行が数多く



新生富士銀行誕生のポスター
(昭和23年)



当座預金記帳会計機導入
(昭和26年)



ロンドン支店のあったフィンスベリーサーカスのビル
(昭和29年ごろ)

乱立したものの、その大半が資金力・信用力に乏しいために、経済変動の影響を受けて経営難に陥りました。安田銀行は、これらの銀行を援助し、時には吸収や合併を行い、預金者の救済にあたりました。そして大正12年(1923年)、これら安田関係の11行が大合同し、新安田銀行として再発足することになったのです。これにより、資本金1億5,000万円、預金5億4,200万円、貸出5億2,100万円、店舗数211、従業員数約3,700人のわが国最大の銀行が名実ともに誕生することになります。

この大合同は、極めて時代の要請にかなったものでした。各種公共事業への出資や公債の引き受けとともに、民間事業の育成にも尽力した善次郎の精神は、後継者たちに引き継がれました。積極的に事業金融に取り組み、実績を築いた安田銀行の足跡は、まさに日本の近代化とともに刻まれた歴史なのです。

広く開かれた、
みなさまの銀行を目指す、
新生富士銀行

昭和23年(1948年)、戦後の財閥解体

という時代の流れの中で、安田銀行は「富士銀行」として新たに生まれ変わりました。新しい「富士」の名前は、「美観と品格が日本で、古くから日本人に親しまれ、外国にも広く知られ、新しい時代の到来にふさわしい」との理由により、行員のアンケートの結果、選ばれたものです。また、新しい行名とともに定められた「広く開かれた、みなさまの銀行をみさず」という経営姿勢は、今日もお変わりなく受け継がれています。

富士銀行が誕生した当時の規模は、資本金13億5,000万円、預金395億円、貸出289億円、店舗数189、従業員数7,899人でした。終戦とともに新たなスタートを切った富士銀行は、ダメージを受けた日本経済の復興に積極的に協力したのです。

高度大衆消費社会の
到来とともに、より一層、
親しまれる銀行を目指して

昭和30年代に入ると、日本経済は高度成長期を迎え、産業界の好景気は個人の所得の増大と平均化をもたらしました。テレビ、洗濯機、冷蔵庫が三種の

神器”といわれる高度大衆消費社会が出現し、個人のお客さまの重要性がますます認識されるようになったのです。それまでも「みなさまの富士銀行」として親しみやすさをモットーにしてきた当行は、昭和35年の創業80周年を機に、「カラコロ富士へ」をキャッチフレーズに、気軽な下駄ばきでご来店いただける銀行のイメージづくりと個人のお客さま向けの商品開発に力を注ぐようになりました。

また、事務処理の合理化・近代化にいち早く着手し、昭和34年にはコンピュータ、昭和42年にはオンラインシステムの導入など、事務作業の機械化が進められました。

日本を代表する銀行として、
海外拠点網を整備

昭和40年代になると、日本企業の海外進出やユーロ市場の拡大など、国内外の経済関係の影響を受けて、銀行業界にも本格的な国際化の波が押し寄せてきました。

当行では、すでに昭和27年(1952年)、戦後初の海外拠点であるロンドン支店、



「カラコロ富士へ」の広告(昭和35年ごろ)





沿 革

翌昭和28年にはアジアの拠点としてカルカッタ駐在員事務所を開設するなど、国際化時代を見越した海外活動を展開していました。そして昭和40年代には、アメリカ、スイス、東南アジアなど世界各国に支店・駐在事務所の開設や現地法人の設立など、海外拠点網を整備するとともに、外国銀行との提携を精力的に推し進め、日本を代表する銀行としての海外業務体制づくりを構築していったのです。

いつでも、どこでも、
すべてのお客さまに
最適なサービスを提供

昭和60年代になると、金融自由化や金融再編成が一層進み、銀行を取り巻く環境も大きく様変わりしました。とくに、平成9年(1997年)以降、「日本版ビッグバン」と呼ばれる金融市場の構造改革が本格化してからは、業態間の垣根が取り払われ、海外の金融機関を含めた全く新しい競争の時代に突入しました。

一方、経済のボーダレス化が進み、インフォメーション・テクノロジーが飛躍的に進展した結果、銀行の業務も一層高度化・多様化を極めていきます。しかも、このような状況において、国内外を問わずお客さまのニーズは、ますます高度で多面的なものに変化してきています。

当行では、そうしたお客さまのさまざまなニーズに広くお応えする商品・サービスの拡充に努めるとともに、情報革新を活用したサービスチャネルの拡充に努めています。

今後大きな成長で見込まれる資産運用・管理業務を大幅に強化するために、株式会社第一勧業銀行と信託業務における戦略的提携を実施、平成11年(1999年)4月には、当行および第一勧業銀行の信託子会社を合併しました。

また、5月には新経営体制を導入し、「顧客支持トップバンク」を目指しています。

元治元年	1864	安田善次郎、日本橋人形町通り乗物町に乾物兼両替店「安田」を開業。
慶応 2年	1866	「安田屋」が日本橋小舟町に移り「安田商店」(両替専門店)と改称。
明治13年	1880	安田商店を合本安田銀行へ改組(当行創業) 資本金20万円、従業員31人、店舗数3。
明治26年	1893	合資会社に改組。
明治33年	1900	合名会社に改組。
明治45年	1912	株式会社に改組、資本金1,000万円、店舗数22(うち出張所8)。
大正12年	1923	11月1日、関係11行が大合同、新しい安田銀行として再出発。資本金1億5,000万円、店舗数211(うち出張所52)。預貸金ともわが国最大の銀行となった。本店を現在地に移転。
昭和18年	1943	日本昼夜銀行を合併。
昭和19年	1944	昭和銀行を合併、第三銀行を譲り受ける。
昭和21年	1946	財閥解体により、安田保善社との関係がなくなる。
昭和23年	1948	10月1日、行名を「安田 かわ」から「富士」へ改称、新資本金13億5,000万円第1位。従業員7,899人、店舗数189(うち出張所4)。
昭和24年	1949	外国為替銀行に指定される。
昭和27年	1952	大正12年からの本店に隣接して新館が完成、以来昭和41年まで本店として利用。
昭和41年	1966	現在の新店完成。普通預金オンラインシステムの試行に成功。
昭和53年	1978	第2次総合オンライン完成(2月20日)
昭和55年	1980	創業100周年(11月1日)
昭和59年	1984	米国大手金融会社ウォルター・イー・ヘラー・アンド・カンパニーおよびウォルター・イー・ヘラー・オーバーシーズ・コーポレーション(現社名ヘラー・フィナンシャル・インクおよびヘラー・インターナショナル・グループ・インク)を買収(1月26日)
昭和62年	1987	日本の銀行として初めてロンドン証券取引所へ上場(9月18日)
昭和63年	1988	富士総合研究所を設立(10月1日)
平成元年	1989	米国有力投資銀行ウルフエンソーン社との合併企業富士ウルフエンソーン・インターナショナルを設立(7月1日)
平成 3年	1991	「欧州アドバイザリーボード」を設置(3月)
平成 4年	1992	「経営懇話会」を発足(8月)
平成 6年	1994	富士証券を設立(10月19日)
平成 7年	1995	富士銀投資顧問と富士投信が合併、富士投信投資顧問が発足(11月1日)
平成 8年	1996	富士信託銀行を設立(6月11日)
平成10年	1998	事業グループ制の導入(1月)
平成11年	1999	安田信託銀行の第三者割当増資を引き受け、同行を当行の連結対象子会社に(3月31日)。第一勧業信託銀行と富士信託銀行が合併、第一勧業富士信託銀行が発足(4月1日)。